

ラッキーベル  
新本社屋を完成  
社名もラッキーベル  
シューズから変更

ラッキーベル(神戸市  
長田区、有吉英二社長、0



78・621・5331)は  
新本社屋(写真)を完成  
し業務を開始すると  
も、社名を「ラッキー  
ベルシューズ」から  
変更した。阪神・  
淡路大震災で被災  
したが、区画整理  
事業の終了に伴っ  
て再移転した。  
新社屋は敷地6  
00平方メートル、建  
屋の延べ床面積1  
000平方メートル。  
階部分はスクール  
シューズや中高齡

者用シューズなど、主力  
商品のショールームと物  
流スペースを併設した。  
社名から「シューズ」を  
外したのは「近い将来、  
異分野へ進出すること  
を念頭に置いた」(有吉社  
長)ため。

社名変更を刺激に

▽:5月1日付で創業  
42年目に初の社名変更を  
行ったラッキーベル(神  
戸市長田区)社長の有吉



有吉さん

歩みはスク  
ールシューズの  
歴史でもあ  
る。專業大手

英二さんは「新社屋完成  
の節目でもあり、社員の  
刺激になれば」とひそか  
に期待を寄せている。  
▽:スクールシューズ  
專業の同社は、95年の大

震災で本社屋を失った。  
この間、介護関連に参入  
するなど事業拡大してき  
たが「社名からシューズ  
を外すには時期尚早の感  
はあった」と苦笑い。  
▽:同社の

(神戸)

2003年(平成15年)9月9日 火曜日

# 長田の サンダル

学校靴メーカー  
ラッキーベル



神戸で生まれ、長野でベストセラーの「スクールサンダル」。丈夫な体作りにより、卓越の技が一役一神戸市長田区、ラッキーベル本社

神戸新聞

# 長野で モテモテ

長野県の小学校で、神戸・長田発の特製サンダルが普及している。簡素なデザインに、靴のまちで磨いた技を生かし、子どもの足を育てる工夫を凝らしている。  
(佐伯竜一)

はだし教育  
利点を応用

## 230校に普及 年3万足販売 児童の発育応援

学校向け靴のラッキーベル(神戸市)が開発。足の裏と接する面の内側を盛り上げて土踏まずの形成を助けるほか、鼻緒で五本指をしっかりと使えるので、踏ん張る力が引き出される。外反母趾なども防ぐ。  
長野県では暑い時期を利用してはだし教育を採り入れる学校が多く、姿

勢の安定や皮膚の強化などに役立っているが、現在と同県の全小学校の全や衛生面の問題も指摘されていた。  
同社は一九九〇年ごろ、はだしの利点を生かす履物作りを依頼され、約一年の試行錯誤を重ねた。同社製品は大半が中国産だが、「このサンダルは他でできない技術を要するので、長田産」と、藤原千秋専務(六)。「靴からの解放感が児童にも好評」(米窪恵子、塩尻市立片丘小養護教

論と評価は年々高まり、現在と同県の全小学校の半数を超える約二百三十校に普及し、年に約三万足が売れる。  
自身も子ども用草履を開発した経験を持つ原田碩三・兵庫教育大名誉教授(六)は、足の指全部をしっかりと使えるため「土踏まずがでやすく、地面をつかむ力が強くなる」と指摘。「姿勢が良くなる」、脳も活性化される」と話している。